

Akita S. Bioengineered alternative tissue 1st Asian Academy Wound Technology meeting, Seoul, Korea, 11, September, 2010

Akita S. St. Petersburg Medial Academy of Postgraduate Studies, Visiting professor, Burn, Scar, Trauma management and regenerative medicine, St. Petersburg, Russia, 18-20, November, 2010

Akita S, Hayashida K, Yoshimoto H, Akino K, Yakabe A, Hirano A Human recombinant basic fibroblast growth factor (bFGF) improves scar quality such as softness, elasticity of the scar and stratum corneum function and color-match as well as accelerates wound healing. International scar meeting in Tokyo 2012, Tokyo, Japan, 1, December, 2010

Akita S. Autologous stem cell delivery Wound healing congress St. Thomas, Virgin Islands, USA, 11, December, 2010

Akita S. Autologous adipose-derived stem cell therapy is useful for chronic intractable wounds. 3rd International Workshop on Wound Technology, Paris, 16-17, January, 2011/02

Akita S. Mesenchymal stem cell therapy for local radiation injuries-Nagasaki experience. 13th Coordination and planning meeting of the REMPAN, Nagasaki, 16-18, February, 2011

Akita S. Adult stem cell therapy and radiation injury. 1st Cell Society meeting, La Jolla, California, 18-19, February, 2011

Akita S. Advancement in science of wound management. 1st joint Asia-Pacific Wound Conference, Singapore, 1-3, September, 2011

Akita S. Future of wound care and stem cell

therapy. 1st joint Asia-Pacific Wound Conference, Singapore, 1-3, September, 2011

Akita S, Yoshimoto H, Hayashida K, Hirano A. Management in difficult wound: application of autologous adipose-derived stem cells in radiation injury, chrohn' s disease and ulcerative colitis. The 8th Asia-Pacific Burn Congress & the 3rd congress of the Asian Wound, Healing Association, Bangkok, 11-14, September, 2011

Akita S. Murakami R. Versatility of thin groin flap and adipose-derived stem cell therapy for burn scar contracture. The 8th Asia-Pacific Burn Congress & the 3rd congress of the Asian Wound Healing Association, Bangkok, 11-14, September, 2011

Akita S, Yoshimoto H, Akino K, Ohtsuru A, Hayashida K, Hirano A, Yamashita S. Novel Therapy for chronic radiation wounds: Autologous adipose-derived stem cell therapy is useful for chronic radiation injuries. 10th Annunal meeting of Italian Wound Healing Society (AIUC), Ancona, 21-24, September, 2011

Akita S, Yoshimoto H, Akino K, Ohtsuru A, Hayashida K, Hirano A, Suzuki K, Yamashita S. Mesenchymal stem cell therapy in local radiation injuries-A Japanese approach. 5th International REAC/TS (Radiation Emergency Assistance Center/Training Site) Symposium, Miami, 27-29, September, 2011

Akita S, Hayashida K. Quality of pediatric burn scar is improved by early administration of basic fibroblast growth factor (bFGF). 1st International Pediatric Wound Care Symposium, Rome, 27-29, October, 2011

Akita S. Autologous adipose-derived stem cells in intractable radiation injury, Chron' s disease and ulcerative colitis. 21st

Japan-China joint congress on plastic surgery,
Fukuoka, 3-4, November, 2011

Akita S, Yoshimoto H, Akino K, Ohtsuru A,
Hayashida K, Hirano A, Suzuki K, Yamashita S.
Autologous mesenchymal stem cell therapy in
local radiation injury-A Japanese approach. 3rd
International conference on regenerative
surgery, Rome, 14-16, December, 2011

Akita S. Human recombinant basic fibroblast
growth factor improves scar quality such as
softness and color-match as well as accelerates
wound healing in traumas, burns, surgical wound
and diabetic foot ulcers. A Japanese experience.
4thinternational workshop on wound technology,
Paris, 15-17, January, 2012

Akita S. Introduction to the world union of
wound healing societies 201, important
kick-off of transcontinental wound registry.
4thinternational workshop on wound technology,
Paris, 15-17, January, 2012

Akita S, Murakami R. Versatility of thin
groin flap for intractable wounds and scar
contracture. 4thinternational workshop on
wound technology, Paris, 15-17, January, 2012

国内

秋田定伯、今泉敏史、秋野 公造、平野明喜、間
葉系幹細胞を用いた神経再生と創傷治癒。第 1 回
日本創傷外科学会、東京、2009 年 1 月 17 日

秋田定伯、HIV 関連 Lipodystrophy の克服に向
けて。平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金エイ
ズ対策研究事業成果発表、東京、2009 年 2 月 20 日

秋田定伯、秋野 公造、大津留 晶、山下俊一、
難治性放射線潰瘍に対する自家脂肪組織由来幹細
胞の開発臨床研究。原子力安全委員会 原子力施
設等防災専門部会 被ばく医療分科会第 21 回 会

合、東京、2009 年 4 月 14 日

秋田定伯、草竹兼司、平野明喜、頭蓋顔面領域
の血管奇形エコーガイド下硬化療法と顔面部再建
について。第 52 回日本形成外科学会、横浜、2009
年 4 月 22 日-24 日

秋田定伯、当科における血管奇形の治療戦略。
第 37 回日本血管外科学会、名古屋、2009 年 5 月
14 日

秋田定伯、静脈奇形の症状と治療。第 1 回血管
腫・血管奇形講習会、札幌、2009 年 7 月 17 日

秋田定伯、秋野公造、平野明喜、大津留 晃、
山下俊一、自家脂肪組織由来幹細胞を用いた放射
線障害の再生医療。第 13 回放射線事故医療研究会、
札幌、2009 年 9 月 5 日

秋田定伯、吉本 浩、古川洋志、藤岡正樹、平
野明喜、山本有平、山下俊一、放射線、HIV 関連
リポディストロフィー克服に向けて-脂肪由来幹
細胞移植の有用性-。第 18 回日本形成外科学会基
礎学術集会、2009 年 10 月 2 日

大芦孝平、秋田定伯、古川洋志、中島正洋、平
野明喜、山本有平、HIV 関連リポディストロフィ
ー克服に向けて-移植脂肪の血流と生着率の関係
評価のための動物実験モデル作成-。第 18 回日本
形成外科学会基礎学術集会、2009 年 10 月 2 日

木下直志、津田雅由、Rodrigo Hamuy、平野明喜、
秋田定伯、ミニブタモデルを用いたエクспанダー
ーと放射線照射に対する bFGF の放射線防護効果
の検討。第 18 回日本形成外科学会基礎学術集会、
2009 年 10 月 1 日

秋田定伯、わが国の HIV 関連リポディストロフ
ィーの実態と治療展望。第 23 回日本エイズ学会、
2009 年 10 月 27 日

大芦孝平、秋田定伯、中島正洋、平野明喜、山

本有平、脂肪移植方法による移植後吸収の変化の検討。第23回日本エイズ学会、2009年10月27日

秋田定伯、吉本 浩、竹下順子、山下俊一、平野明喜、自家脂肪由来幹細胞を用いた放射線障害に対する再生医療。第53回日本形成外科学会、金沢、2010年4月9日

秋田定伯、リンパ管奇形の診断と治療について。第2回血管腫・血管奇形研究会講習会、松山、2010年7月17日

木下直志、津田雅由、Rodrigo Hamuy、平野明喜、秋田定伯、ミニブタモデルによる外科的処置と放射線障害に対するbFGFの効果の検討。第2回日本創傷外科学会、神戸、2010年7月

秋田定伯、HIV関連Lipodystrophy（リポディストロフィー）の実態と自家脂肪幹細胞移植治療。第24回日本エイズ学会、共催セミナー【慢性疾患として HIV/エイズ治療の問題点と展望】、東京、2010年11月24日

秋田定伯、吉本 浩、林田健志、平野明喜、HIVリポディストロフィーに対する自家脂肪幹細胞再生医療。第54回日本形成外科学会、徳島、2011年4月13日

木下直志、Rodrigo Hamuy、吉本 浩、林田健志、芳原聖司、中島正博、平野明喜、秋田定伯、サイトカインおよび人工真皮とともに実施した同時植皮の生着性、術後拘縮および癩痕性状の検討。第3回日本創傷外科学会、札幌、2011年7月8日

秋田定伯、吉本 浩、林田健志、芳原聖司、平野明喜、ケロイド電子線照射後放射線障害（潰瘍、拘縮）に対する自家脂肪組織由来幹細胞を用いた再生医療。第3回日本創傷外科学会、札幌、2011年7月9日

小渕美樹子、安達耕成、小森知加子、二之宮実知子、高橋眞弓、下田澄江、松本武浩、本多正幸、

看護情報支援システム構築までの概要。平成20年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議、2009年1月20日

馬場由美子、江藤栄子、リストバンドによるバーコード認証の有効性の検討。大学病院情報マネジメント部門連絡会議、2009年

吉田麻実、長池恵美、化学療法中における嘔気、嘔吐の実態調査～患者と看護師の捉え方の違いについて～。平成21年度長崎県看護学会学術集会、長崎、2009年8月29日

高祖恵美、濱本洋子、子供の手洗いの実態調査～入院中の子どもの手洗い調査と保護者の意識調査～。第6回長崎県小児保健学会、長崎、2009年8月30日

小林ルミ子、松浦香代子、高度な医療ケアを必要とする患児の在宅療養への取り組み—ケアシートを用いた在宅医療ケアの調整—。第40回日本看護学会 小児看護、高知、2009年9月

小渕美樹子、松本武浩、本多正幸、指示一元管理に向けた電子指示簿の開発と問題点。第29回医療情報学連合大会、2009年11月22日

小渕美樹子、出口砂緒利、高橋眞弓、小林初子、和田貴寿、浅田眞端、松本武浩、本多正幸、看護情報システム（電子カルテ）導入1年度の実態調査。平成21年度大学病院情報マネジメント連絡部門会議、2010年1月21日

杉島圭子、松田三喜子、AIDS発症後治療を拒否していた患者が治療に参加するまでを振り返る。第18回九州HIV看護研究会、宮崎 2010年2月6日、第14回エイズ診療ネットワーク in Nagasaki 長崎、2010年3月20日

牧山信子、松田三喜子、江藤栄子、リポディストロフィーに対する脂肪幹細胞移植の症例報告。第18回九州HIV看護研究会、宮崎、2010年2月6日

日、第 14 回エイズ診療ネットワーク in Nagasaki
長崎、2010 年 3 月 20 日

宮本美樹子、五島美香子、長池恵美、血液疾患
への化学療法看護に関する意識調査～患者と看護
師への質問調査から～。第 32 回日本造血細胞移植
学会、静岡、2010 年 2 月 19 日

中里寿美、宮崎智子、効率的かつ経済的物品管
理への取り組み。第 13 回日本医療マネジメント学
会学術総会、2010 年 6 月 24 日

川口サツミ、江藤栄子、入院説明業務集中化に
よる質向上の試み。大学病院情報マネジメント部
門連絡会議、2010 年

川口サツミ、江藤栄子、長崎大学病院における
メディカルサポートセンターの役割 (1) ー外来看
護師の評価ー。日本医療マネジメント学会学術総
会、2010 年

川口サツミ、江藤栄子、長崎大学病院における
メディカルサポートセンターの役割 (2) ー外来看
護師の評価ー。日本医療マネジメント学会学術総
会、2010 年

木村由紀、長池恵美、60 歳以上の血液疾患患者
における化学療法後の栄養状態調査。第 41 回日本
看護学会ー老年看護ー、奈良、2010 年 9 月 10 日

馬場由美子、江藤栄子、インシデントレポート
を利用した転倒・転落発生報告数と診療指標との
関連性の検討。日本医療マネジメント学会学術総
会、2011 年

田中澄子、江藤栄子、長崎大学病院における医
療安全対策 ー是正処置評価における安全管理ー。
日本医療マネジメント学会学術総、2011 年

田川理美、松田三喜子、HART 治療開始後、免疫
再構築を引き起こすまでに至った患者の治療及び
看護の経過を振り返る。第 19 回九州 HIV 看護研

究会、福岡、2011 年 3 月 5 日

中村志保、松田三喜子、1 年に及び入退院を繰
り返した AIDS 患者の 1 例。第 15 回エイズ診療ネ
ットワーク in Nagasaki 長崎、2011 年 3 月 19 日

旭 未季、牧山信子、松田三喜子、リポジスト
ロフィーに対する脂肪幹細胞移植への患者の思い。
第 15 回エイズ診療ネットワーク in Nagasaki、
長崎、2011 年 3 月 19 日

和田さゆり、山口しおり、田原えりか、濱本洋
子、宗教的理由から輸血を拒否した骨肉腫の 14
歳女兒例ー意志決定支援を考えるー。九州地区血
液腫瘍学会、宮崎、2011 年 5 月

小渕美樹子 楠葉洋子、特定機能病院における
認知症高齢者の看護の実践状況とその困難感。日本
老年看護学会第 16 回学術集会、2011 年 6 月 15 日

池田津奈子、松尾久美、薄田みわ、長池恵美、
土屋暁美、中嶋由紀子、北條美能留、高田正史、
芦澤和人、高橋眞弓、田添京子、専門分野 (がん)
における質の高い看護師育成事業 5 年間の成果と
課題。第 16 回日本緩和医療学会学術集会、札幌、
2011 年 7 月 30 日

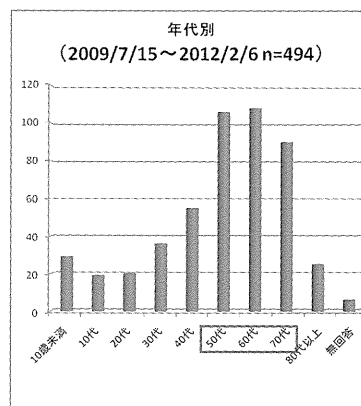
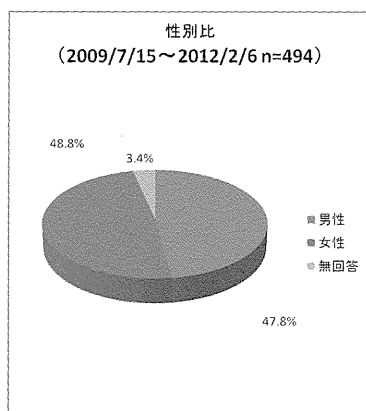
平尾久美子、松田三喜子、田添京子、摂食・嚥
下障害に対する病棟看護師の観察実施項目の現状
把握ー看護師の専門コース受講による比較ー。第
42 回 (平 23 年度) 日本看護学会看護総合、千葉、
2011 年 9 月 8 日

小渕美樹子、楠葉洋子、特定機能病院における
看護師の背景による認知症高齢者の看護実践状況
の相違。第 12 回日本認知症ケア学会大会、2011
年 9 月 24 日

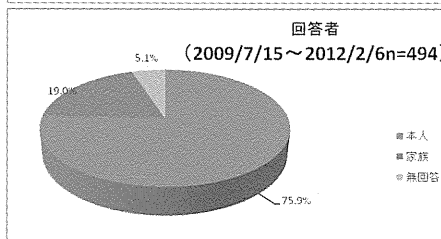
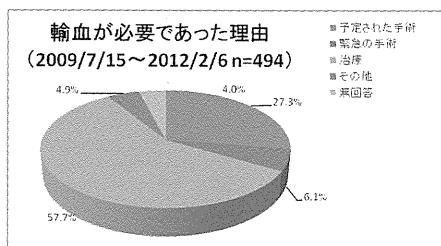
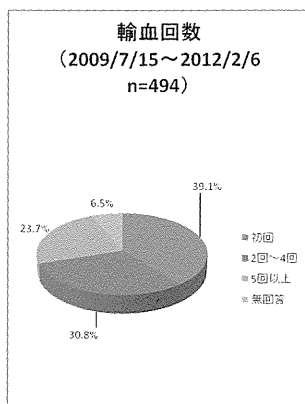
山口優美、山下久子、木村由花、戸北正和、能
田美穂、橋本久子、サリチル酸白色ワセリンを使
用した褥瘡予防の検討。第 14 回県南ブロック協議
会研究会、長崎、2011 年 12 月 10 日

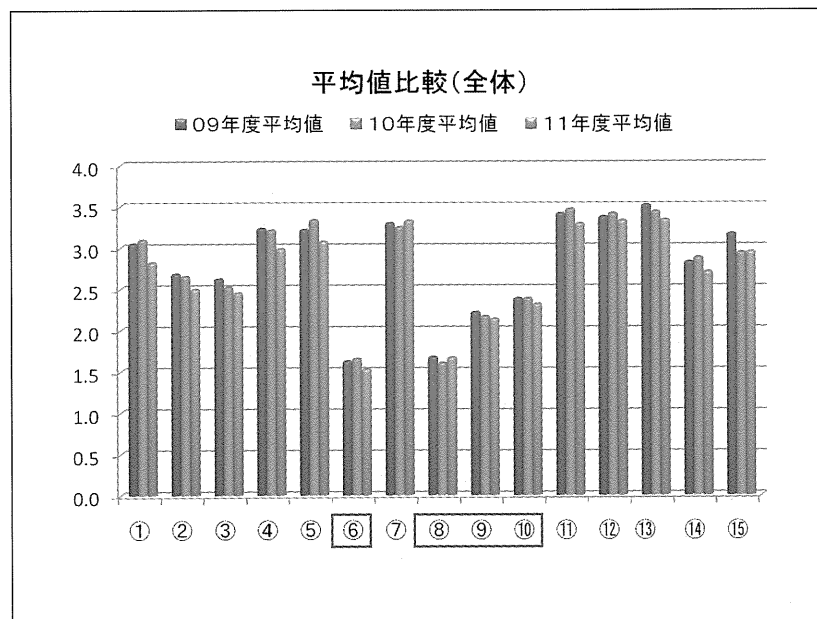
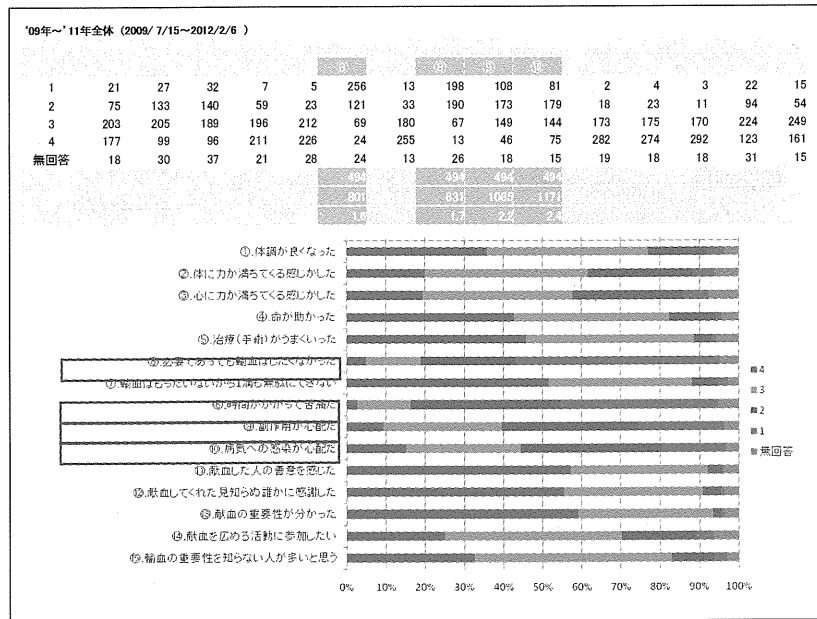
	2009年度	2010年度	2011年度	合計
調査期間	7/15～3/31	4/1～3/31	4/1～2/6	2009/7/15～ 2012/2/6
配布数	204	189	118	511
未回収	4	6	7	17
回収率	98.0%	96.8%	94.1%	96.7%
回答拒否	0	1	7	8

2009年度～2011年度



2009年度～2011年度





血液凝固因子製剤の2009年～2010年度の使用患者数(実人数)

人数(人)

血液凝固第Ⅶ因子製剤	ノボセプンHI静注用5mg	2
血液凝固第Ⅷ因子製剤	コンファクトF注射用500	7
	クロスエイトM 500U	17
	アドベイト注射用 250単位	5
	アドベイト注射用 1000単位	8
血液凝固第Ⅸ因子製剤	PPSB-HT静注用500単位	15
	ノバクトM注射用800IU(旧500U)	2
	ノバクトM注射用1600IU(旧1000U)	3
	ベネフィクス静注用1000U/V	0
血液凝固第ⅩⅢ因子製剤	フィプロガミンP静注用	3

血液凝固因子製剤 使用患者の声		献血回数
輸血について	<p>輸血にも様々な種類があることを、自分自身の治療により知った状態です。 (例、アルブミン) 現在は毎週の点滴で体調を維持することができており、献血に対して感謝の気持ちは強くなっています。 ただ、献血量がどれくらい不足しているかなどは把握していないこともあり、点滴が終われば、治療についての意識は低くなってしまいます。 輸血は自分にとってどれだけ大切なことなのか、それがどれだけ不足しているのか、意識を高めるための情報や仕組みが出来ればと思います。</p>	5回以上
献血について	<p>献血はしたことがありませんが、痛いというイメージがあります。 またメリットが自分以外という印象が強いと感じています。 健康チェックも同じ血液で出来れば、その仕組みを利用する方は増えるのではないでしょうか(実施済みかもしれませんが)</p>	5回以上

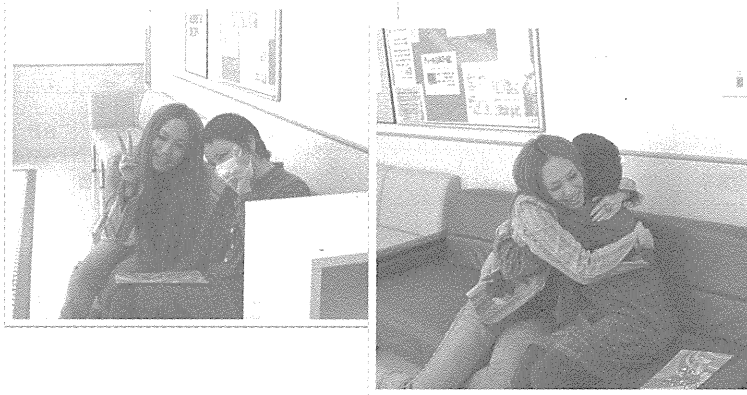
		2009	2010	2011	合計	
肯定的意見	ありがたい・感謝	48	32	28	108	
	輸血(献血)の大切さ認識	15	11	5	31	
	身体症状改善	17	5	7	29	
	献血を促したい	6	4	0	10	
	心配なし	3	1	0	4	
	その他(感想)	13	10	9	32	
	合計	102	63	49	214	
否定的意見	感染などの不安	10	15	7	32	
	自己血を利用したい	0	1	0	1	
	安心して輸血を受けられる時代が来るように望む	1	1	2	4	
	経済的負担	0	1	0	1	
	蕁麻疹などの副作用	7	1	1	9	
	輸血針の痛み	0	1	0	1	
	輸血の依頼から準備、その他に時間がかかる	4	0	0	4	
	その他(感想)	0	0	5	5	
	合計	22	20	15	57	
改善策	献血促進への改善策	場所	0	0	0	0
		メリット	0	0	1	1
		痛み	0	1	0	1
		広報	5	3	1	9
		その他	1	0	4	5
	合計	6	4	6	16	

献血に関する意見・感想/カテゴリ別分類		2009	2010	2011	合計	意見の比率	改善策の比率	
* 3年間で153名の対象者より234のご意見・感想を頂きました *								
改善策	場所	9	7	6	22		25.9%	
	メリット	3	4	3	10		11.8%	
	痛み	3	2	1	6		7.1%	
	時間	待ち時間	1	0	1	2	35.7%	2.4%
		献血所要時間	4	0	1	5		5.9%
	広報	11	12	6	29		34.1%	
	その他	5	3	3	11		12.9%	
感謝		9	14	6	29	12.2%		
大切さの認識		8	7	2	17	7.1%		
献血して欲しい		9	12	8	29	12.2%		
献血したい		12	9	5	26	11.0%		
知識不足		2	2	2	6	2.5%		
その他(感想)		16	15	15	46	19.3%		
合計		92	87	59	238	100.0%		

その他の活動

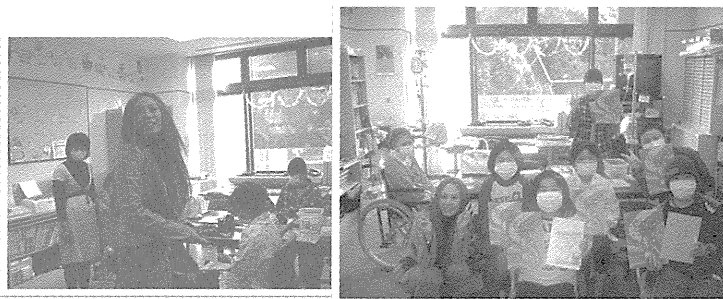
- Metis 曲のイメージ作り取材協力
- Metis ロビーコンサート開催の調整
- 【けんけつ HOP STEP JAMP】へ、輸血を受けた方やご家族の声を提供
- 献血者へのアンケート調査
- 献血ウォーカーの取材協力
- 献血セミナー映像作成協力

小児科



将来の夢を語り、勇気をもらいました

たんぽぽ学級



子供達のリクエストに応じてたんぽぽ学級にも行きました
手作りのミサンガやキーホルダーを子供達からプレゼントされました。
お礼に、Metisさんはアカペラの歌と塗り絵を手渡されました
子供達が目を輝かせて歌に聞き入っていたのがとても印象的でした

血液内科



ギターで母賛歌のコードを弾いて、Metisと一緒に歌い
周りのスタッフからたくさんの拍手をもらいました

11階西病棟にて

献血車がきた
とき、献血に
行きました！

輸血は、善意
の証なんだと
再認識しました

Metisさんのお
かげで、献血に
たいする意識
が高まりました！



献血に行っ
たけど、できませ
んでした・・・
ごめんなさ
い！

献血車が来た
とき、積極的に
勧めています

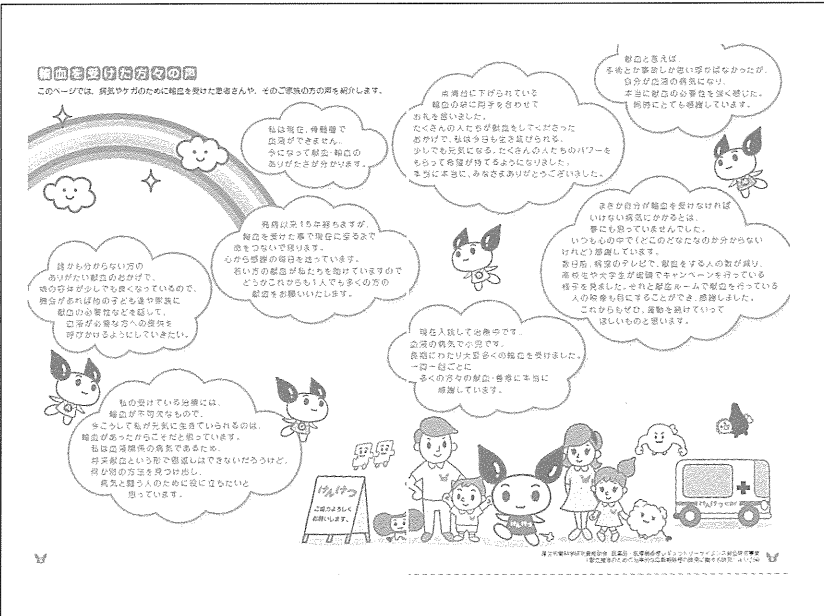
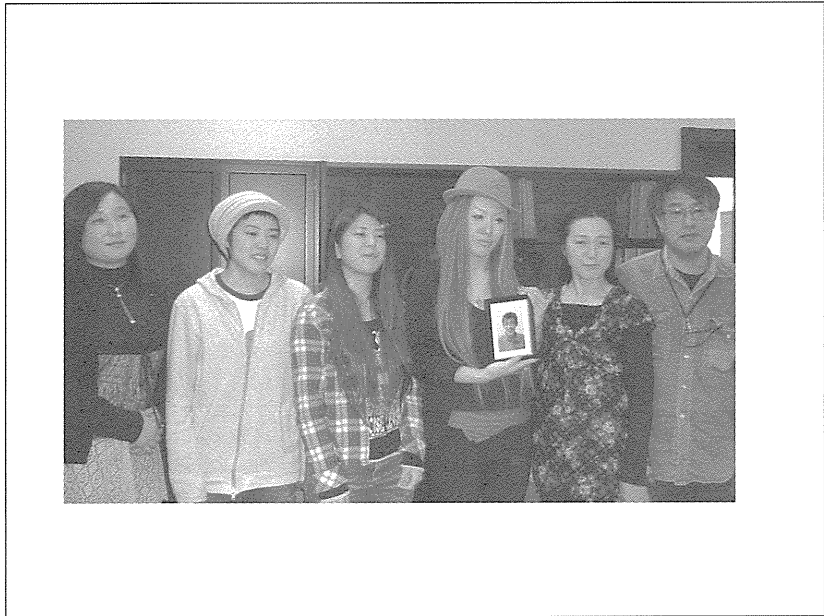
2009年11月19日

Metisさんが曲作りのために来院されました。

患者さん達は励まされ、医療従事者は献血に対する意識が向上しました。



**2010年2月15日、完成した曲を、皆の前で歌ってくれました。
献血の大切さを、共有することができました。**



2010年8月27日に長崎大学病院 玄関へ献血車が来ました。

献血車



受付風景



計80名の方が献血に来られました。
職員の意識向上にも役立ちました。

07

献血者、献血ルームスタッフ、ライフレシビエント
それぞれの想い

献血ルームスタッフ
献血者がおぼえたスタッフの想いとは？
献血ルームスタッフが献血の場に居る理由、
献血者に対するライフレシビエントの想い、
その想いにはそれぞれが、つづめられています。

献血者
献血者一人一人の想いとは？
献血者一人一人の想いとは？
献血者一人一人の想いとは？

ライフレシビエント
ライフレシビエントの想いとは？
ライフレシビエントの想いとは？
ライフレシビエントの想いとは？

START

献血制限の緩和で実現！
献血リポート

献血制限の緩和で実現！
献血リポート

GOAL!

献血から血液製剤まで、
献血から血液製剤まで、
献血から血液製剤まで、

献血から血液製剤まで、
献血から血液製剤まで、
献血から血液製剤まで、

献血から血液製剤まで、
献血から血液製剤まで、
献血から血液製剤まで、

まとめ

血液製剤使用者の皆様へ、輸血(血液製剤を含む)に関連したアンケート調査を実施したが、単施設であり、内容の具体的な吟味まで至らなかった。
3年間の経年的調査で、調査側の学習効果と知識の普及・啓発効果がみられ、献血から輸血更に患者さんの使用までの一連の流れを良く理解できた。
マスメディア・著名人の介在により、大きな広報効果があり、患者さんの意識の向上にも繋がった。

今後は、更に詳細は解析とより効果的な広報方法の開発と評価を目指したい。

輸血を受けた皆様へ

課題名：当院における献血推進のための輸血後実態調査

長崎大学病院 献血推進輸血後実態調査研究グループ

わが国では、病気やケガの治療のために輸血を受け、血液製剤を必要とする人たちが数多くおられます。そして、医学の進歩により、治療における血液の需要はますます高まる傾向にあります。

輸血に使用される血液とは、“人々の無償の博愛に基づく献血”を基本にして供給されています。しかし、若年年齢層の人口減少や献血に対する認識の薄れなどから、ここ数年にわたり献血件数が減少しているのが現状です。

つまり、安定した血液供給の維持と推進のためには、世の中のより多くの方々に献血の意義を知って頂き、今後さらに献血の機会を増やしていくことが重要となっています。

そこで、輸血を受けた皆さんの声をもとに、献血の重要性・必要性を明らかにし、(輸血、血液製剤(輸血用血液性製剤や血漿分画製剤)の供給源である)献血の推進に役立てたいと思いますので以下のアンケートにご協力お願い致します。

尚、本人が回答できない場合は、ご家族の方がご記入ください。

- ・今回のアンケートで得た情報は、今後の献血に関する普及活動を中心とする本調査研究、啓発活動以外の目的では一切使用いたしません。
- ・回答はすべて統計的に処理され、個人を特定するようなことはありません。
- ・この調査は大変貴重なもので、多くの人に参考にして頂きたいと考えています。

本調査結果につき、情報を公表することに (同意する 同意しない)

平成 年 月 日

(番号 _____)

連絡先

責任者：秋田定伯 (長崎大学病院 形成外科)

電話：095 819 7327

I. 該当するものの番号に○をして下さい。

1. 性別 ①男 ②女
2. 年齢 ①10歳未満 ②10代 ③20代 ④30代 ⑤40代
 ⑥50代 ⑦60代 ⑧70代 ⑨80代以上
3. あなたは現在 ①入院中 ②外来通院中
4. 輸血回数 ①初回 ②2回～4回 ③5回以上
5. 今回どの輸血・血液製剤を使用しましたか? ()
6. どのような理由で輸血されましたか。

①予定された手術 ②緊急の手術 ③治療 ④その他 ()

7. このアンケートをご記入頂いたのは ①本人 ②家族

II. 輸血を受けてからのことについて下記基準を用い、該当する番号に○をして下さい。

基準：4＝大変そう思う 3＝そう思う 2＝あまり思わない 1＝思わない

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| ① 輸血したことで体調が良くなった。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ② 輸血したことで体に力が満ちてくる感じがした。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ③ 輸血したことで心に力が満ちてくる感じがした。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ④ 輸血したことで命が助かった。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑤ 輸血したことで治療（手術など）がうまくいった。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑥ 治療に必要であっても輸血はしたくなかった。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑦ 輸血はもったいないから1滴も無駄にできない。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑧ 輸血は時間がかかって苦痛だ。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑨ じんま疹などの輸血の副作用が心配だ。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑩ 輸血したことで病気に感染することが心配だ。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑪ 献血した人の善意を感じた。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑫ 献血してくれた見知らぬ誰かに感謝した。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑬ 輸血したことで、献血の重要性が分かった。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑭ できるならば、献血を広める活動に参加したい。 | 【 4 3 2 1 】 |
| ⑮ 輸血の重要性を知らない人が多いと思う。 | 【 4 3 2 1 】 |

III. あなたは病気になる前に、献血したことはありますか。(① ある ② ない)

IV. その他、輸血を受けたことに対するご意見ご感想があればご自由にお書きください。

V. その他、献血に対するご意見ご感想があればご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

3

供血者の実情調査と献血促進および阻害因子に関する研究

研究分担者：石川 隆英（日本赤十字社 血液事業本部）
 研究協力者：菅原 拓男（日本赤十字社 血液事業本部）
 照井 健良（日本赤十字社 血液事業本部）
 鹿野 千治（日本赤十字社 血液事業本部）
 木村 美羽（日本赤十字社 血液事業本部）

研究要旨

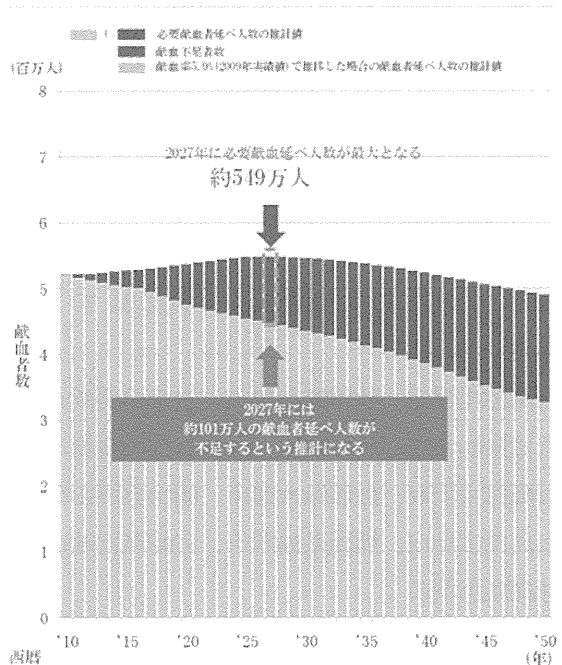
医学の進歩によって臓器移植が可能になるなど、治療における輸血用血液製剤の需要は高まり、特に、一昨年の改正臓器移植法の施行に伴い緊急かつ大量輸血の事例が増加している。今後安全な血液を如何に安定的に確保するかが重要な課題である。厚生労働省が実施した若年層意識調査の結果及び検証を踏まえて検討された「献血推進のあり方に関する検討会」報告においても輸血用血液製剤の需要の増加にも拘わらず、若年層の献血離れの傾向に歯止めがかからないことが指摘されている。その理由は明らかにされておらず、献血推進における広報の効果に関する研究もこれまで実施されていない。今後、安全な輸血用血液製剤の安定的な確保のためには、献血の実情を明らかにし、その原因の解明を行い、対策を提示することが重要と考えられる。

研究目的

日本赤十字社が平成22年に行った血液需給将来推計シミュレーションでは、現在の献血率（献血可能人口の献血率5.9%）のまま少子高齢化が進展すると、需要がピークを迎える平成39年（2027年）には、献血者約101万人分の血液が不足することが予測されている。

また、今後の安全な輸血用血液製剤の安定的な確保のためには、献血の実情を明らかにする必要がある、その中でも、ここ10年で40%も献血者数が減少している10代、20代の若年層について、献血離れの現象があるとすれば、その原因の解明を行い、献血推進に向けた戦略的な広報を開発することにある。

これは、輸血用血液製剤の需要量に見合った献血量を確保し、安定供給を図る上で極めて重要であり、本研究の必要性は高い。



研究方法

平成21年10月から、メディアを活用した戦略的な広報展開として、インターネット、携帯サイト、ラジオ放送（継続した全国放送、地域における放送）等による広報や、よりインパクトのある音楽イベントによる献血啓発等を軸とした、通年での継続性のあるキャンペーンを展開し、その前後での献血行動の分析から広報の効果を評価する。

献血推進の広報に必要な伝えるべきメッセージは

何か、また、特に若年層にメッセージを伝える媒体や伝達方法などを十分に解析して、広報の戦略を立て、広報の効果については献血者の属性毎の人数の分析やキャンペーンによる広く国民からのメッセージ収集等を行い、献血の意識付けも含めた評価を行う。

プロジェクトにおける主な実施事項

① 全国におけるラジオ放送の実施

第 1 期

平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日

第 2 期

平成 22 年 7 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日

第 3 期

平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日

(平成 23 年 7 月～9 月は、リニューアルにともない一時放送休止)

② 各地域におけるラジオ放送の実施

後援団体である JFN (株式会社ジャパンエフエムネットワーク) 加盟各局の番組内における啓発を実施 (平成 21 年 10 月～平成 24 年 6 月 30 日の間、各局 1 番組～3 番組で約 10 分程度)

③ 各地におけるイベントの実施 (平成 24 年 1 月 31 日時点)

北海道札幌市、秋田県秋田市、岩手県盛岡市、宮城県仙台市、愛知県名古屋市、石川県金沢市、大阪府大阪市、滋賀県大津市、岡山県岡山市、広島県広島市、福岡県福岡市、宮崎県宮崎市、沖縄県那覇市

④ 音楽イベントの開催

第 1 期 グランキューブ大阪

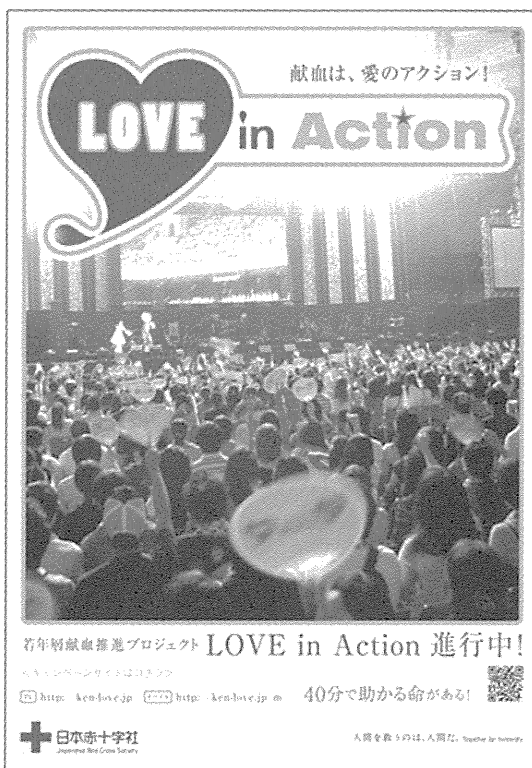
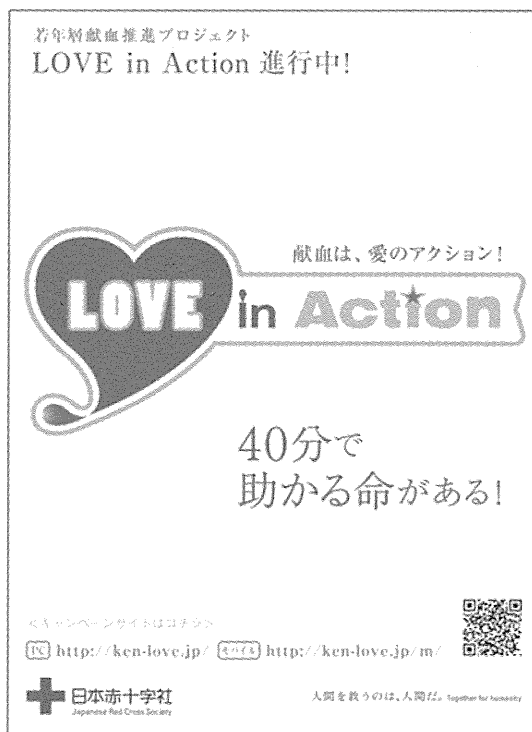
C.C. レモンホール (現渋谷公会堂)

※応募総数 8,220 人、来場者数は、3,980 人

第 2 期 日本武道館 (2 日間開催)

※応募総数 70,982 人、来場者数は 19,485 人

※サブ会場として日本製紙クリネックススタジアム宮城 (1 日目)



研究結果

若年層に献血の意義を伝え、献血行動を促すことを目的に、通年で実施してきた「LOVE in Action プロジェクト」について、第 1 期 (平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)、第 2 期 (平成 22 年 7 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日)、第 3 期 (平成 23 年 7 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日) を展開し、以下の結

果が得られた。

① 献血者数については、平成21年度が延べ5,303,431人、平成22年度が延べ5,329,676人であり、平成22年度は対前年比26,245人の増加となった。また、平成23年度(4月～12月)は3,925,073人であり、輸血用血液製剤の需要に見合った確保がなされている。

② 年代別にみると、平成21年度の10代は延べ293,696人(人口に対する献血率6.0%)、20代が延べ1,126,931人(同7.8%)、平成22年度の10代は延べ295,775人(同6.1%)、20代が延べ1,080,814人(同7.9%)となっており、10代の献血者数が微増し、また人口に対する献血率は、10代、20代共に微増傾向にある。なお、平成23年度(4月～12月)の若年層献血者数については、10代は延べ220,536人、20代が延べ771,964人であり、献血推進計画2014にある平成23年度目標(10代の献血率6.0%、20代の献血率8.0%)に向けて、本プロジェクトを継続的に実施することが重要である。

③ ラジオによる啓発については、リスナーからの投稿数(月平均)が、第1期239通、第2期304通と増加した。第3期(平成23年10月～平成24年1月)は237通である。

また、若年層(29歳以下)からの投稿数(月平均)については、第1期89通、第2期117通に対し、第3期は75通となっている。

第2期終了時から3ヶ月のリニューアル期間で一時放送を休止していたこと、放送時間が朝から夕方に変更になったことを考慮すると、投稿数は増加傾向にあるものと思われ、特に若年層への継続的な献血啓発の効果が認められた。

【リスナーメッセージ(一部抜粋)】

★栃木県(女性19歳)

しゅうさん!!お久しぶりです!

以前献Qに参加した福島県のみーです。今は、大学生になり、一人暮らしのため栃木県に住んでいます。看護師を目指して頑張っています!!いた

だいたバッチはいつでもバックにつけていますよ!!また、大学に献血バスが来たときは必ず献血してます(*^_^*)献血でみんなの愛が広がりますように!

★新潟県(女性26歳)

初めてメールします。私は高校生の時に友達につれられて行ったのが献血のはじまりでした!

それから数年…この間献血回数70回を数えました!終わった後身体がスッキリした気分私にとってリフレッシュする場所。それが役立つくれるなら嬉しいです!まずは100回を目指します!

★長野県(女性28歳)

こんにちは、はじめまして。朝の時間帯に初めて聞いたときは、朝からうるさいなあ…と思っていたのですが、だんだんとしゅうさんの理念が身に染み渡って、今ではすっかり番組としゅうさんのファンです。麻耶さんというナイスパートナーと一緒に夕方に復活してうれしいです。好きなのは、「笑ろてはりましたか〜」「明日まで笑ってや〜」と、いつも笑うことを大事にしていること、それから、献血についても、できる範囲でできることを、と皆を巻き込んだ活動と呼びかけていること。元気もらっています。もらった元気をシンセキのみんなに伝えたいと思います!これからも頑張ってください!

★滋賀県(男性19歳)

シュウさん、マヤさん、こんばんは。朝の番組の頃からず〜と聴いています。今更ですが、シュウさんの顔写真を初めて拝見し、イメージと全く違って驚きました。(良い意味でね!)献血も「痛い」イメージがありますが、きっと「自分でも誰かの役に立てた」という喜びの方が大きいですよね?今度勇気を出して献血に挑戦します!ラブステください。献血をみんなに広めたいです。

★長崎県(女性32歳)

シュウさん、マヤさん、こんばんは!突然ですが質問があります!私は18歳の誕生日から、こま

めに献血に行くようにしていて、現在は 32 歳になりました。つい最近お腹に赤ちゃんがやってきて、幸せいっぱいなのですが…妊娠していたら献血はできませんか？そろそろまた、献血に行こうと思っていた矢先で、献血センターの前で『もしかしたら、できない？』と思い、とりあえずシュウさんに聞いてみようと思いました。妊娠、出産、授乳…それが全て終わるまでは、献血はできないのでしょうか？きっと日本中で、今私と同じ疑問をもっている妊婦さんの We are 親戚もいるはずですよ！どうか教えてください！

★岡山県（女性 28 歳）

いつも帰宅中に車で聞いてます。私は以前、400mL 献血をして貧血？になり、その場で立ち上がれなくて赤十字の人に家まで送ってもらった経験があり『二度と献血なんてするもんか！』と心に決めました。が、ラブインアクションを聞くようになり、成分献血ならいけるんじゃないかと思ひ、今、妊娠中なんで出産後に献血行ってみようかなと思ってます。できる範囲でやればいいんだなって思ってます。

★兵庫県（男性 12 歳）

シュウさん麻耶ちゃん帰ってきてくれてありがとう〜。ラジオを聴く前は、献血なんて大人になっても絶対やらへんと思ってたけどラジオを聴いたら私でも命の助けになれるんや〜と思って絶対行こうと決めました。まだまだ協力できるまでには、時間がたくさんあるけどどうか私が大人になるまでは番組続けてください。そして献血しに行った時はシュウさんと麻耶ちゃんに絶対伝えるからね。

★山口県（男性 53 歳）

シュウさん、麻耶さんお疲れサマ〜♪

この度、なんと 13 年ぶり 4 回目の献血してきました。この番組は、第一回から聞いていて、何時か行こう行こうと思っていたんだけど、献血バスは遠くのショッピングセンターへ行ってばかり、献血ルームはもっと遠くの町にあって、車を持っていない俺にとって出向くには至難の技？です。

ですが、今回やっと近くの公民館に来てくれました。ここで逢ったが百年目！早速愛車のチャリで行ってきました。久々の注射針はちょっと痛かったけれど、終わった後の爽快感はやっぱり二重丸で Good!!

献血手帳もカードに代わり、やっと親戚の仲間入りができました！また、機会があれば寄せてもらいます。

★大阪府（女性 26 歳）

献血デビューへの第一歩が踏み出せずにいます。それはなぜか？お守り代わりにしようと思っていたラブステシートが届かないからです！せっかくシュウさんに読んでもらったのに…。小林さんにも頑張っってねと言ってもらえたのに…。ショックです。きっとシュウさんは、ステッカーがなくても行けるはず！と言うだろうけど、ダメ元で、もう一度シールならぬステッカーを下さい。お願いします。

★福島県（女性 18 歳）

はじめまして。

親戚増やしていきます(笑)しゅうさんも頑張ってください！ずっと応援してます！

曲を聴いても、この時間になるとすぐラジオに変えて聞くぐらい大好きです☆最近、近くのショッピングセンターに立ち寄ったら丁度、献血を募集しているところでした！しかしながら…私は注射が苦手で、健康診断の採血でも半泣き状態。やるか、やらないかで迷うこと 10 分。受付場所に向かいました！が、その日にインフルエンザの予防接種をしていたために献血は断念…予防接種も駄目だったんですね…でも、この放送を聞いてなかったら献血しようなんて思わなかったと思います！今後は献血したいと思います、ので、ラブステシートと勇気をください！

★青森県（女性 35 歳）

今日献血バスで 400mL やってきました。久しぶりに行ったら検査方法とか変わってビックリしたけど今回は無事にできてひと安心です…前回は検査で帰りました。

★宮崎県（男性 57 歳）

この間、娘が献血クイズに応募してラジオにでる事になったと聞いてメールしました。以前から車で毎朝しゅうさんのラジオを聞くと本当に元気になるので1日の仕事の活力になります。ラブインアクションを聞いて献血にも行かなければ！という気持ちになり、微力ながら献血に貢献させてもらっています。これからも元気な声と力を視聴者に聞かせてください！応援しています！

★鹿児島県（女性 16 歳）

しゅうさんこんにちは。復活おめでとうございます！朝やっていると毎日聞いていたんですが夕方は部活があるので毎日聞けなくて残念です。でも部活休みのときとか時々聞いて元気もらってます！今、高2なんですけど高1のときに初献血しました！思ったより痛くなかったし大人に一步近づいた気分でした！そのときは部活の先輩と行ったんですけど、今度は同級生誘って2回目行きます！自分もどんどん献血広めて親戚増やしていきます。(笑) しゅうさんも頑張ってください！ずっと応援しています！

★富山県（男性 40 歳）

「趣味・献血」と言い切れる40歳のおっさんです。献血カード上では累計130回となりました。主に成分献血をしているのですが、いまいち血小板(PLT)の数が若干足りなく血漿献血となっています。人の役に立っているという気持ちはほとんど無く、生活の一部となっております。「献血ができる＝健康な体を維持できている」と考えて、無理せず続けていきたいと思っています。

★静岡県（女性 17 歳）

LOVE in Action 復活、嬉しいです！おかえりなさい！朝やっていた時は学校の支度をしながら聞いていましたが、今は学校から帰ってくる時間帯なので、部屋でごろごろしながら聞いています♪今、私は高校2年生なので、同級生の男子はもう400ミリリットル献血が出来る年代なんです。なので、これからも献血の大切さを広めていきますね！We are シンセキ！

④ 各地におけるイベント会場のアンケート調査の結果から、10代～20代の回答割合は、第1期54.9%、第2期47.5%、第3期49.4%（平成24年1月までの3会場）と高値を示しており、また、第1期～第3期を通して全体の約4割が献血未経験者であることから、特に若年層をターゲットとした献血への動機付けの観点からは十分評価できる内容であった。

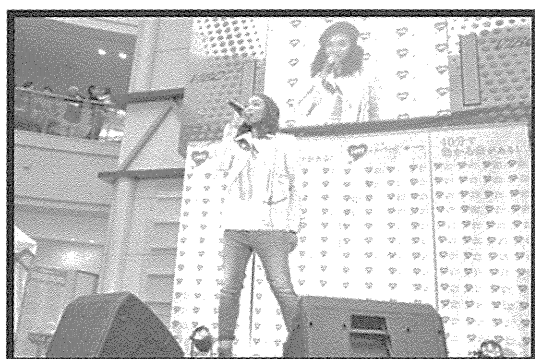
また、イベントにおける認知経路としては、本イベントの軸であるラジオ、テレビが第1期14.8%、第2期49.2%、第3期78.0%（平成24年1月31日現在での3会場）となっており、メディアを活用した戦略的広報も十分評価できる内容であったと思われる。

⑤ インターネット調査(全国の16歳～69歳男女、各1,000人対象)の結果から、LOVE in Actionプロジェクトの認知率は、第1期10代13.8%、20代22.3%、第2期10代43.3%、20代38.7%と増加している。認知経路としては、ポスター、献血会場、テレビCM、テレビ番組・報道が上位を占めており、特に若年層については、テレビCM、番組・報道が認知経路として増加している。

また、本プロジェクトを知ったことによる意識や行動の変化として、「献血をしたくなった」は、第1期10代31.6%、20代22.6%に対し、第2期は、10代40.8%、20代29.3%、「実際に献血をした」は、第1期10代3.3%、20代5.4%に対し、第2期は、10代20.8%、20代28.4%となっており、献血への意識が高まった効果が見られた。

これらの結果から、広報効果について十分評価できる内容であったと推測される。

各地でのイベントの様子



活動として、今後も継続していく必要があるものと考ええる。

また、将来の献血基盤となる若年層への献血の意識付けを図るためにも、学生献血推進ボランティアの協力も得ながら、同世代からの献血啓発等を強化し、献血に結びつける効果的な取組みも行う必要がある。

同時に、献血未経験者へのアプローチも重要であることから、献血未経験者の反応も含めたアンケート調査の詳細分析等、効果測定を継続して実施し、今後の展開に活用していく必要があるものと考ええる。

健康危険情報

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし

研究発表

該当なし

考察

全国的に通年で実施している「LOVE in Action プロジェクト」については、ラジオ放送、インターネット、携帯サイト、各地でのイベント等による献血啓発や、よりインパクトのある音楽イベント等を軸とし、継続した展開を実施することにより、若年層を中心に、メディアを活用した戦略的な広報として、一定の効果があるものと推測される。

結論

当該プロジェクトについては、広く若年層に対する献血への理解、動機付けをし、最終的に献血そのものへ繋げるための有効な広報であり、また、特に献血ができない年齢層（15歳以下）への献血啓発